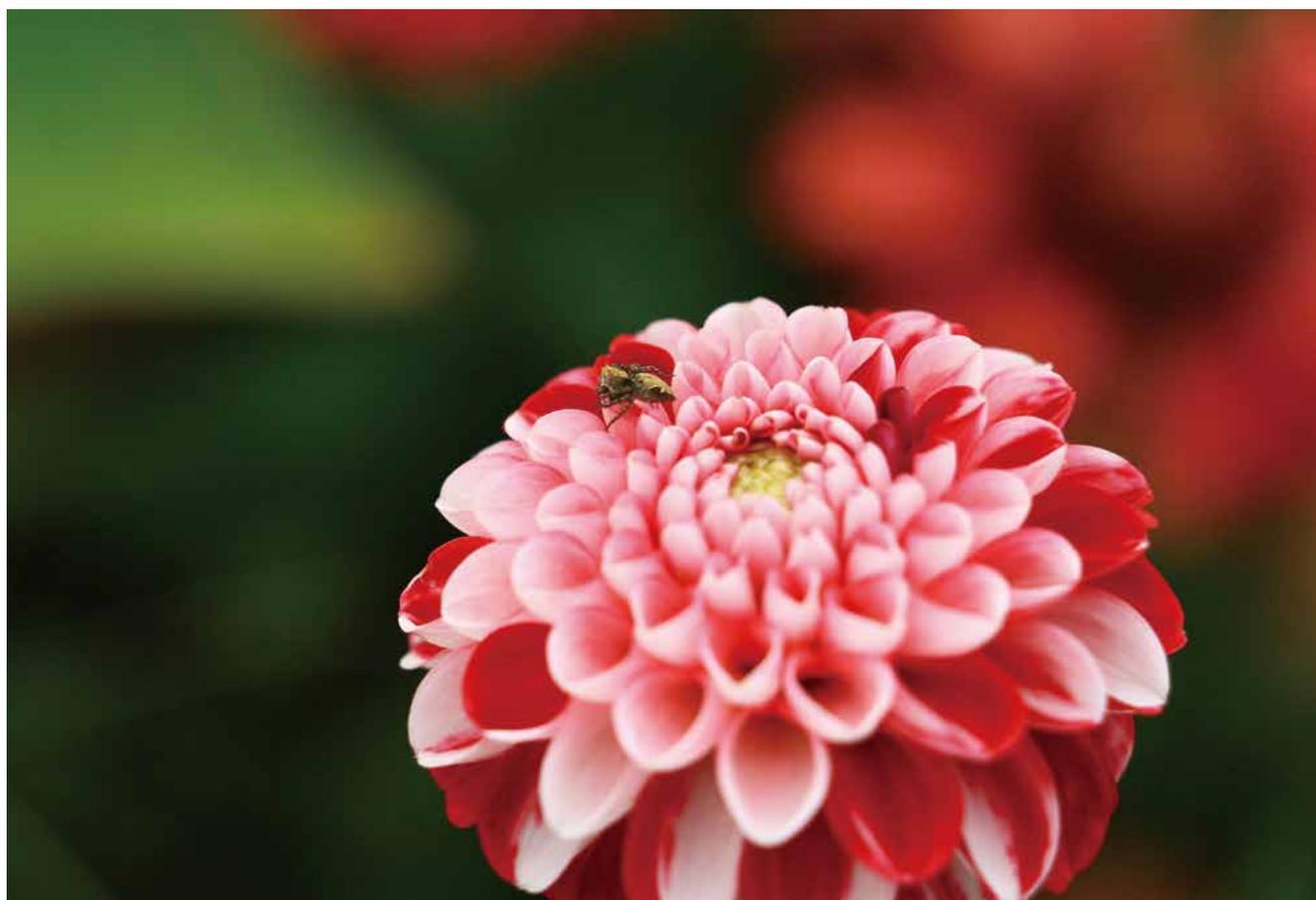


はちの医師会のうしろ姿

NO. 658

令和6年4・5月号

八戸市医師会



巻頭言 インフォデミックに振り回されないために

(表紙題字：元八戸市医師会理事 小坂 康美)

目 次

表紙絵解説	橋 京子 …	2
☆巻頭言☆		
インフォデミックに振り回されないために …	広瀬 知明 …	3
令和6年3月定例理事会		4
令和6年4月定例理事会		13
第112回臨時総会		24
八戸市医師会役員		26
八戸市医師会議長・副議長		26
八戸市医師会裁定委員会		26
八戸市医師会理事職務分担		27
八戸市医師会各委員会名簿		28
八戸市医師会立八戸准看護学院第63回卒業証書授与式		31
八戸准看護学院校歌		35
八戸市医師会立八戸准看護学院第65回入学式		36
☆学 術☆		
八戸精神科医会 WEB 講演会		41
第630回八戸胃腸研究会		42
地域連携講演会『サイエンス漢方処方 Webinar』		43
第656回八戸耳鼻咽喉科医会学術講演会		44
令和5年度母子保健講習会		45
第31回日本CT検診学会学術集会		47
第21回日本乳癌学会東北地方会		49
☆臨床検査・診療メモ☆		
H.pylori関連ディスペプシアについて		50
健康教室		52
☆倶楽部だより☆ 八戸市医師会ゴルフニュース(第1報)		53
耳鼻科医ですが、マンモグラフィ読影判定医、やっています！ 三國谷由貴 …		54
ドイツ留学思い出昔話46. ドイツ留学に際して指導・支援して下さった恩人たち(3) (U.W. シュニーダ正教授)	橋本 功 …	56
令和5年度八戸市医師会会員（A会員）の統計調査		58
デーリー東北新聞社提供	62・63・64・65	
八戸市休日夜間急病診療所利用状況		67
研修～リレー日誌～	69・70・71・72	
八戸市医師会誌投稿規定		73
会員消息		74
事務局日誌メモ		76
行事予定		77
編集後記		78

表紙絵解説

ダ リ ア

自然な構図とバランスの取れた色調になり小さな生き物の息遣いまで聞こえてきそうです。

(橋 京子)

巻 頭 言

インフォデミックに振り回されないために

株式会社デーリー東北新聞社 代表取締役社長

広瀬 知 明

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行してから間もなく1年。瞬く間に世界中に広がった感染症は人々の行動を制限し、日々の暮らしや経済活動を一変させたが、喉元を過ぎれば何とやら。今では過去の話となりつつある。

それでも、当時、よく使われた言葉を思い出すと、コロナ禍のあの頃がまざまざとよみがえってくる。濃厚接触、ステイホーム、緊急事態宣言、ロックダウン、ソーシャルディスタンス、3密、在宅勤務、不要不急、無観客、自粛警察、ウイズコロナ、GoToキャンペーン…。世の中を覆っていた重苦しく冷たい空気感は今でも忘れられない。

戦う相手は突然変異を繰り返す不気味なウイルス。正体不明の敵を前に不安や恐怖を抱くのは人間として自然であり、多少ヒステリックになっても致し方ないであろう。

ただ、報道に携わるものとして看過できなかったのが、SNSを通じて真偽ない交ぜの情報が瞬時に、しかも大量に拡散される「インフォデミック」が起きたことだ。それは感染場所と感染者の特定に始まり、感染予防対策、重症化リスク、後遺症、新開発のワクチンなどあらゆる話題に及び、流言とデマ、果ては陰謀論まで飛び交った。

インフォデミックはまた、深刻な中傷と差別をもたらし、その矛先は医療従事者を含めたソーシャルワーカー、感染者と周辺の人々に向かった。昼夜を問わず、感染リスクにさらされながら検査と治療に明け暮れた皆さんも内心、穏やかではなかつただろう。

SNSはつまるところ、個人が一方的な情報を発信する媒体である。中には正しい情報があるかもしれないが、個人的な感情や思い込みに左右され、何らかの意図、もしくは悪意のある

情報も含まれる。それを鵜呑みにした人が「いいね」のボタンを押し、リンクを張って、まるで事実であるかのように広がっていく。

善意が混乱を生んだケースもあった。2020年2月に起きたトイレトパーパー騒動を覚えているだろうか。twitter（現在のX）に「新型コロナの影響で中国から輸入できず、品切れになる」とのデマが投稿され、最初はほとんど拡散しなかったが、デマを否定する投稿と紙製品の品薄を知らせる注意喚起の投稿が増加。これがテレビやニュースまとめサイトで取り上げられると、供給に問題はないと分かっているのに、多くの人が「念のために」と買いだめに走ったのだ。

当紙にも反省すべきことがある。自治体や地域の主要企業が職員の感染状況を公表し始めて以降、情報を収集し紙面で紹介していたが、同じ業種でも公表、非公表の判断が分かれた。その結果、公表している企業から客足が遠のき、公表していない企業に流れるという事態が起きた。非公表の企業でも感染者がいるはずなのに、である。

現代の私たちはデジタルシフトによる利便性を享受しており、ネットやスマートフォン、SNSがない時代には後戻りできない。だからこそ、パンデミックや大規模な災害、紛争などの非常時にインフォデミックに振り回されないためにも、「メディアリテラシー」を身に付けることが大切だ。

メディアリテラシーとは「媒体の特性を理解し、情報を正しく読み取り、適切に活用する力」を意味する。生成AIの急速な技術革新でフェイクニュースの蔓延が指摘される昨今だけに、その必要性はなおさらである。裏の取れた確かな情報は、手前味噌だが新聞メディアを活用していただきたいと思う。